



2023年 夏期スケジュール 国際定期便は週 869 便 ～国際旅客便 中国方面を除き 19年比 7割の回復～

関西エアポート株式会社は、国際定期便の2023年夏期スケジュールについて、東アジア方面や東南アジア方面における国際旅客便のコロナ禍からの本格的な回復や、引き続き好調な国際貨物便に支えられ、国際旅客便の中国方面を除き、週 869 便^{*1}（19年比^{*2} 55%）を見込んでいます（9月ピーク時点）。国際貨物便数は週 211 便で夏期スケジュールとして過去 2 番目の便数となっています。

国際旅客便については、中国方面を除く便数としては、週 658 便（19年比^{*2} 46%）を見込んでおります。その内、香港・マカオ方面はグレーターベイ航空（HB）の新規就航等により週 100 便（19年比 81%）、韓国方面は週 252 便（19年比 72%）、台湾方面は週 98 便（19年比 73%）と、これら 3 方面が回復を牽引しています。

長距離路線については、ヨーロッパ方面において、フィンランド航空（AY）がヘルシンキ線を週 3 便、ルフトハンザ ドイツ航空（LH）がミュンヘン線を週 3 便で復便し、北米方面においては、エア・カナダ（AC）がバンクーバー線を週 4 便で復便します。

その他の方面においては、パティックエアー マレーシア（OD）やタイベトジェット（VZ）といった 2022 年冬期スケジュールにおいて新規参入した航空会社が、引き続き運航する予定です。

国内旅客便については、2019 年の神戸空港の発着枠拡大を受けた増便や、コロナ禍におけるピーチアビエーション（MM）の関西空港での就航路線拡大等もあり、3 空港合計の 1 日あたりの便数は 294 便と 19 年夏期実績（288 便（ピーク時））を上回る便数規模となります。

なお、国際旅客便における LCC 便数は週 335 便となり、国際旅客便のおよそ 5 割が LCC 便となっております。関西空港の国内旅客便に占める LCC 便数は、1 日 42 便となり、全体の約 6 割が LCC 便数となっています。

^{*1} 中国方面の国際旅客便に関してはピーク時の便数見通しが不透明であることから、計画便数には含めない

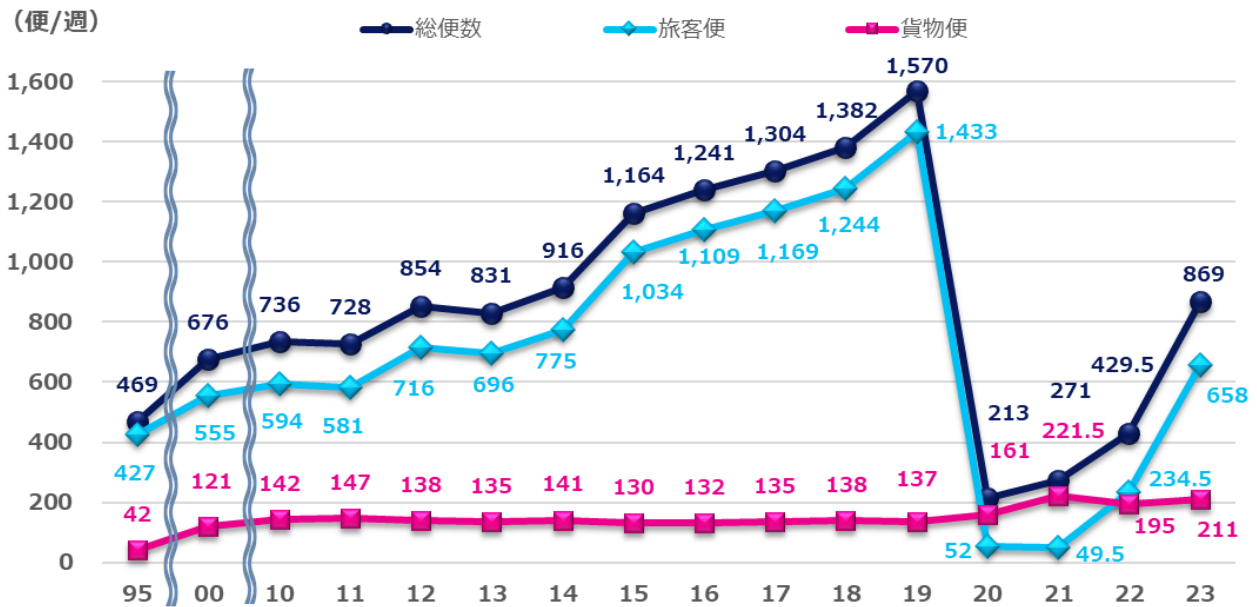
^{*2} 2019 年夏期スケジュール実績（中国方面の便数も含むピーク時）との比較

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション
Tel : 072-455-2201

国際定期便 就航便数の推移

夏期スケジュール



◇方面別便数内訳 (国際定期旅客便)

	19夏 (都市数)		19冬 (都市数)		20夏 (都市数)		20冬 (都市数)		21夏 (都市数)		21冬 (都市数)		22夏 (都市数)		22冬** (都市数)		23夏計画 (都市数)	構成比	
韓国	348	(6)	232	(4)	3	(1)	5	(1)	5	(1)	7	(1)	88	(2)	240	(5)	252	(4)	38%
中国	494	(34)	600	(37)	15	(2)	3	(3)	1	(1)	1	(1)	6	(6)	8	(6)	-	-	0%
香港・マカオ	124	(2)	125	(2)	7	(2)	2	(1)	1.5	(1)	1	(1)	27	(1)	75	(1)	100	(2)	15%
台湾	135	(3)	134	(3)	7	(1)	13	(1)	9	(1)	10	(1)	27	(1)	80	(2)	98	(2)	15%
東南アジア	197	(11)	198	(11)	11	(3)	13.5	(4)	17.5	(3)	22.5	(3)	62	(6)	117	(7)	141	(7)	21%
北米	54	(5)	40	(3)	0	(0)	1.5	(2)	1.5	(2)	2.5	(3)	8.5	(2)	14	(3)	29	(4)	4%
うちハワイ	28	(1)	28	(1)	0	(0)	1	(1)	1	(1)	1	(1)	7	(1)	8	(1)	14	(1)	
欧州	35	(5)	30	(5)	3	(1)	8	(3)	10	(3)	10.5	(4)	5	(2)	5	(2)	14	(4)	2%
オセアニア・グアム	32	(4)	40	(5)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	5	(2)	7	(2)	17	(2)	3%
その他*	14	(5)	10	(3)	6	(1)	4	(1)	4	(1)	5	(1)	6	(1)	7	(1)	7	(1)	1%
合計	1,433	(75)	1,409	(73)	52	(11)	50	(16)	49.5	(13)	59.5	(15)	234.5	(23)	553	(29)	658	(26)	100%
本邦社	3社		4社		0社		2社		1社		2社		2社		2社		2社		
外航社	60社		60社		10社		19社		15社		16社		33社		39社		38社		
運航会社	63社		64社		10社		21社		16社		18社		35社		41社		40社		

* その他方面には、中東、インド、ネパール、極東アジアを含む。

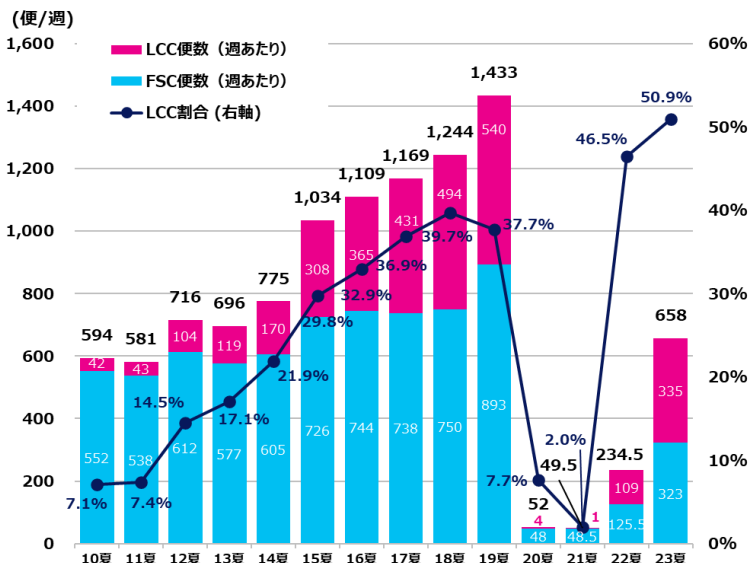
** ピーク時における実績及び計画便数。22冬は直近2023年3月5日～3月11日における実績便数

国際定期旅客便における LCC の概況及び方面別便数

◇国際線 LCC 内訳：16 社 16 都市

航空会社	路線	便数/週
ピーチ・アビエーション (計49便)	ソウル (仁川)	21
	香港	7
	台北	7
	高雄	7
	バンコク (スワンナプーム)	7
チェジュ航空 (計63便)	ソウル (仁川)	35
	ソウル (金浦)	14
	釜山	14
エアプサン (計21便)	釜山	14
ジンエアー	ソウル (仁川)	7
ティーウェイ航空 (計42便)	ソウル (仁川)	28
	大邱	7
	済州	7
	釜山	7
エアソウル	ソウル (仁川)	14
香港エクスプレス	香港	33
タイガーエア台湾 (計14便)	台北	11
	高雄	3
セブ パシフィック航空	マニラ	7
フィリピン・エアアジア	マニラ	7
ベトジェットエア (計21便)	ハノイ	14
	ホーチミン	7
タイ・エアアジアX	バンコク (スワンナプーム)	7
タイベトジェット	チェンマイ	4
エアアジアX (計11便)	クアラルンプール	7
	ホノルル	4
スクート	シンガポール	7
ジェットスター航空	ケアンズ	7
計		335

◇国際線定期旅客便における LCC 割合の推移



2023 年夏スケジュールでは LCC 比率の高い韓国路線の回復が著しい点に加え、新規 LCC タイベトジェットの就航により LCC 比率は上昇している。

国際定期便 航空会社別就航便数

国・地域名	航空会社	2019年夏期 3/31～10/26 2019年8月(ピーク)			2019年冬期 10/27～3/28 2020年1月(ピーク)			2023年夏期 3/26～10/28 2023年9月(ピーク)			
		実績			実績			計画			
		旅客便	貨物便	合計	旅客便	貨物便	合計	旅客便	貨物便	合計	
日本	JL 日本航空	42		42	42		42	15		15	
	NH 全日本空輸	49	10	59	49	5	54				
	MM ビーチ・アビエーション	94		94	88		88	49		49	
	GK ジェットスター・ジャパン				4		4				
アメリカ	UA ユナイテッド航空	14		14	15		15	17		17	
	DL デルタ航空	14		14	7		7				
	HA ハワイアン航空	7		7	7		7	6		6	
	FX フェデラル エクスプレス		58	58		56	56		97	97	
カナダ	SX ユナイテッド パーセル サービス		14	14		16	16		21	21	
	AC エア・カナダ	5		5				4		4	
イギリス	BA ブリティッシュ・エアウェイズ	4		4	3		3				
ドイツ	LH ルフトハンザ ドイツ航空	7		7	7		7	3		3	
	GEC ルフトハンザ・カーゴ		2	2		2	2		4	4	
オランダ	KL K L Mオランダ航空	7		7	7		7	3		3	
フランス	AF エールフランス航空	7		7	6		6	5		5	
イタリア	SB エア カルディア インターナショナル	2		2	2		2				
	CB カゴロックス イタリア		3	3							
フィンランド	AY フィンランド航空	10		10	7		7	3		3	
アラブ首長国連邦	EK エミレーツ航空	7		7	7		7	7	2	9	
カタール	QR カタール航空					1	1		3	3	
アゼルバイジャン	7L シルクウェイ・ウエスト・エアラインズ		2	2		2	2		1	1	
ロシア	S7 S7航空	2		2	1		1				
韓国	KE 大韓航空	53	3	56	42	5	47	28	6	34	
	OZ アシアナ航空	42	1	43	35	2	37	35	4	39	
	7C チェジュ航空	73		73	48		48	63		63	
	BX エアプサン	35		35	14		14	21		21	
	ZE イースター航空	22		22	14		14				
	LJ ジンエアー	39		39	13		13	28		28	
	TW ティーウェイ航空	49		49	38		38	42		42	
	RS エアソウル	14		14	13		13	14		14	
	中国	CA 中国国際航空	59		59	63		63			
		CAO 中国国際貨運航空		6	6		6	6		7	7
		MU 中国東方航空	71		71	82		82			
		CK 中国貨運航空		5	5		5	5		5	5
CZ 中国南方航空		53		53	61		61				
MF 厦門航空		17		17	27		27				
FM 上海航空		7		7	7		7				
Y8 金鵬航空			5	5		5	5				
CF 中国貨運郵政航空			5	5		10	10		24	24	
ZH 深圳航空		32		32	56		56				
SC 山東航空		28		28	28		28		7	7	
9C 春秋航空		57		57	69		69				
HO 上海吉祥航空	64		64	77		77					
GS 天津航空	14		14	21		21					
JD 北京首都航空	2		2	4		4					
BK 奥凱航空	4		4	8		8					
3U 四川航空	14		14	14	3	17		3	3		
HU 海南航空	9		9	16		16					
O3 順豊航空								1	1		
香港	GJ 長電航空				4		4				
	CX キャセイパシフィック航空	42	3	45	34	4	38	35	4	39	
UO 香港エクスプレス	30		30	31		31	33		33		
HX 香港航空	21		21	20		20	14		14		
HB グレーターベイ航空							4		4		
LD エアホンコン		6	6		6	6		6	6		
マカオ	NX マカオ航空	7		7	14		14	7		7	
台湾	BR エバー航空	35	2	37	35	3	38	28	4	32	
	CI チャイナ エアライン	41	12	53	41	13	54	28	12	40	
	IT タイガー-エア台湾	17		17	16		16	14		14	
	JX スターラックス航空							14		14	
フィリピン	PR フィリピン航空	21		21	21		21	14		14	
	SJ セブ パシフィック航空	7		7	7		7	7		7	
	Z2 フィリピン-エアアジア	7		7	7		7	7		7	
ベトナム	VN ベトナム航空	21		21	21		21	14		14	
	VJ ベトジェットエア	14		14	14		14	21		21	
タイ	TG タイ国際航空	14		14	14		14	14		14	
	XJ タイ-エアアジアX	14		14	14		14	7		7	
	XW ノックアウト	7		7	6		6				
	SL タイ-ライオン-エア	5		5	5		5				
マレーシア	VZ タイベトジェット							4		4	
	MH マレーシア航空	7		7	7		7	7		7	
D7 エアアジアX	18		18	18		18	11		11		
OD パティックエア- マレーシア							4		4		
シンガポール	SQ シンガポール航空	21		21	21		21	14		14	
	3K ジェットスター-アジア航空	18		18	23		23				
TR スクート	14		14	10		10	7		7		
インドネシア	GA ガルーダ-インドネシア航空	9		9	7		7				
インド	AI エアインディア	3		3							
モンゴル	OM MIATモンゴル航空	2		2							
ネパール	RA ネパール航空				2		2				
オーストラリア	QF カンタス航空	3		3	5		5				
JQ ジェットスター航空	6		6	7		7	7		7		
ニュージーランド	NZ ニュージーランド航空				3		3				
合計	週間就航便数	1,433	137	1,570	1,409	144	1,553	658	211	869	
	1日あたり就航便数	204.7/日	19.6/日	224.3/日	201.3/日	20.6/日	221.9/日	94.0/日	30.1/日	124.1/日	
	運航会社数	63社	16社	73社	64社	17社	74社	40社	18社	52社	
	就航国(地域)数	22ヶ国	22ヶ国	26ヶ国	21ヶ国	21ヶ国	25ヶ国	17ヶ国	21ヶ国	24ヶ国	
	就航都市数	75都市	44都市	91都市	73都市	46都市	91都市	26都市	48都市	62都市	

* 関西エアポート(株)調べのため、政府認可申請中の便や、申請前の計画便も含まれる。

* 本資料中、共同運航便(コードシェア便)は運航会社で整理。

* 上記表では、往復1便未満の便数はカウントしてない。

* 2023夏期は旅客便における中国本土便は集計に含めない。

国内定期旅客便 就航便数

地域	都市	ITAMI							KIX							KOBE									
		2019年 夏期 (実績)	2019年 冬期 (実績)	2023夏期 (計画)				2019年 夏期 (実績)	2019年 冬期 (実績)	2023夏期 (計画)					2019年 夏期 (実績)	2019年 冬期 (実績)	2023夏期 (計画)								
				計	JAL	ANA	IBEX			AMX	計	JAL	JTA	ANA			SFJ	peach	Jetstar	計	ANA	SKY	SNO	AIRDO	FDA
北海道	札幌 (新千歳)	10	10	11	5	6		13	15	15	2		4		7	2	6	6	6	1	3		2		
	釧路							1	1	1					1										
	函館	2	2	2	1	1																			
東北	青森	6	6	7	4	3												1					1		
信越	三沢	1	1	1	1																				
	秋田	6	6	6	3	3																			
	花巻	4	4	4	4													1						1	
	山形	3	3	3	3																				
	仙台	15	15	14	7	5	2	3	3	3					3		2	2	2		2				
	福島	4	4	4		2	2																		
	新潟	10	10	10	4	4	2	1	1	1					1										
	松本																	1	2						2
関東	成田	4	4	2	1	1		6	6	8					3	5									
	羽田	30	30	30	15	15		13	13	12	3		5	4			9	9	8	2	6				
	茨城																3	3	3		3				
近畿	但馬	2	2	2	2																				
中国 四国	隠岐	1	1	1	1																				
	出雲	4	4	4	4												1								
	松山	12	12	11	2	9		1	1																
	高知	6	6	6		6		1	1								2	1						1	
九州	福岡	10	10	10	4	5	1	5	5	4					4										
	長崎	7	7	8	4	4		1	1	1					1		4	3	3		3				
	熊本	10	10	11	4	6		1	1	1															
	大分	7	7	7	3	3	1																		
	宮崎	11	11	11	5	6		2	1	1					1										
	鹿児島	13	13	13	7	5	1	3	2	3					3		2	3	2		2				
	屋久島	1	1	1	1																				
	奄美大島	1	1	1	1			1	1	1					1										
沖縄	那覇	5	5	5	2	3		14	13	15		3	4		6	2	7	6	7		4	3			
	石垣							3	4	4		1	1		2										
	宮古							1	1	3		1	2												
	下地島																	1			1				
1日あたり 便数	(実績)	185	185	-	-	-	-	70	70	-	-	-	-	-	-	-	33	36	-	-	-	-	-	-	-
	(計画)	185	185	185	88	87	9	70	66	72	5	5	16	4	33	9	33	36	37	3	24	3	2	5	
就航都市数		26	26	26	24	18	6	17	17	14	2	3	5	1	12	3	7	10	12	2	8	1	1	4	

※臨時便・チャーター便を除く。

※各期のピーク時点便数を記載。(23Sのピークは4月9日、判明分のみ記載)

■大阪国際空港 就航会社…日本航空 (JAL)、全日本空輸 (ANA)、アイベックスエアラインズ (IBEX)、天草エアライン (AMX)

■関西国際空港 就航会社…日本航空 (JAL)、日本トランスオシャン航空 (JTA)、全日本空輸 (ANA)、スターフライヤー (SFJ)、ピーチアビエーション (APJ)、ジェットスター・ジャパン (JJP)

■神戸空港 就航会社…全日本空輸 (ANA)、スカイマーク (SKY)、ソラニエア (SNO)、AIRDO (ADO)、フジリウムエアラインズ (FDA)



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックスグループについて

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では法人金融、産業/ICT 機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンセッション、銀行、生命保険など多角的に事業を展開しています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界約30カ国・地域に拠点を設け、グローバルに活動しています。

今後も、常に新しい価値を創造する強みと専門性を生かし、<オリックス>という完成形のない独自のビジネスモデルを基に、企業や人々に活力をもたらす企業活動を通じて社会に貢献してまいります。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、欧州、アジア、南北アメリカ大陸の12か国において65以上の空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするため、2016年から他の空港運営事業者に先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニックホールディングス株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

2022年度 利用状況（4月-2月）及び 2023年 夏期スケジュールについて

2023.3.22



Shaping a New Journey



目次

 **2022年度 利用状況 (4月-2月)**

 **2023年夏期スケジュールについて**

 **質疑応答**

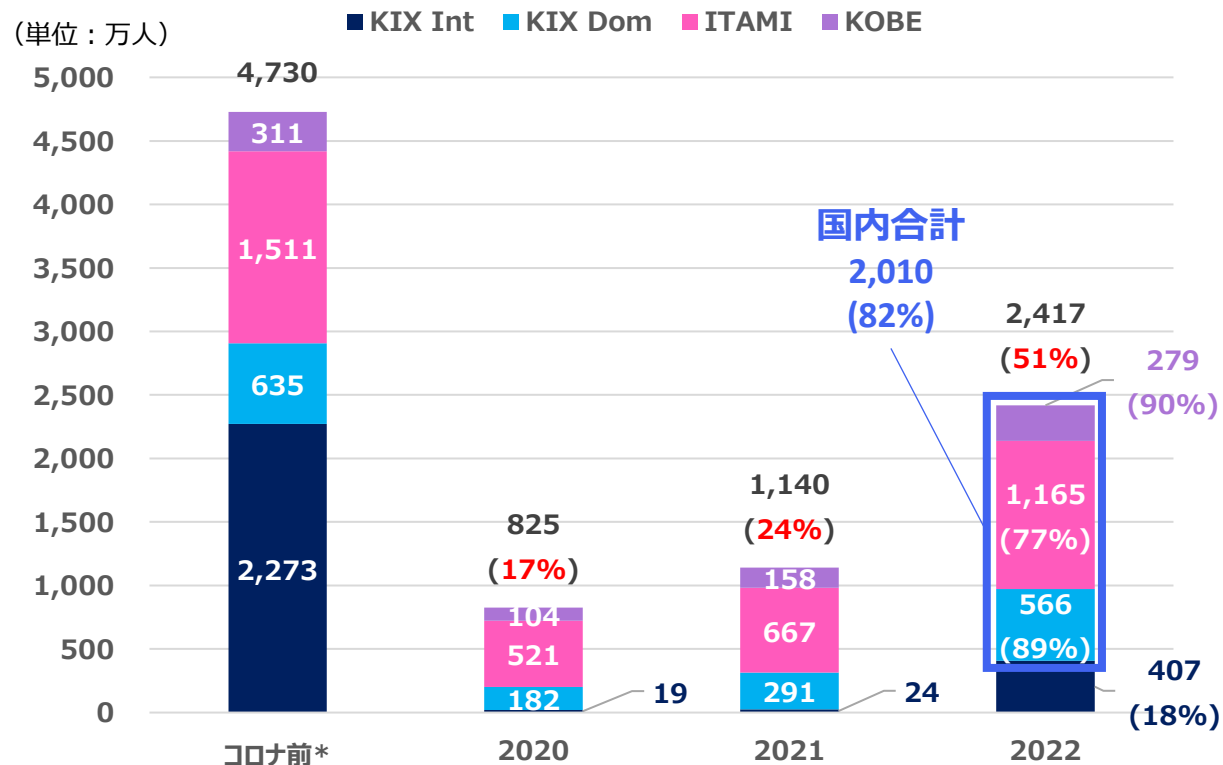


2022年度 利用状況（4月-2月）

3空港 旅客数利用実績 (4-2月)

2022年度の3空港合計の総旅客数は2,417万人 (コロナ前比 51%)

4-2月累計 旅客数実績



* 2019年4月～2020年1月、2019年2月の合計。()内の数値はコロナ前からの回復率を表示。

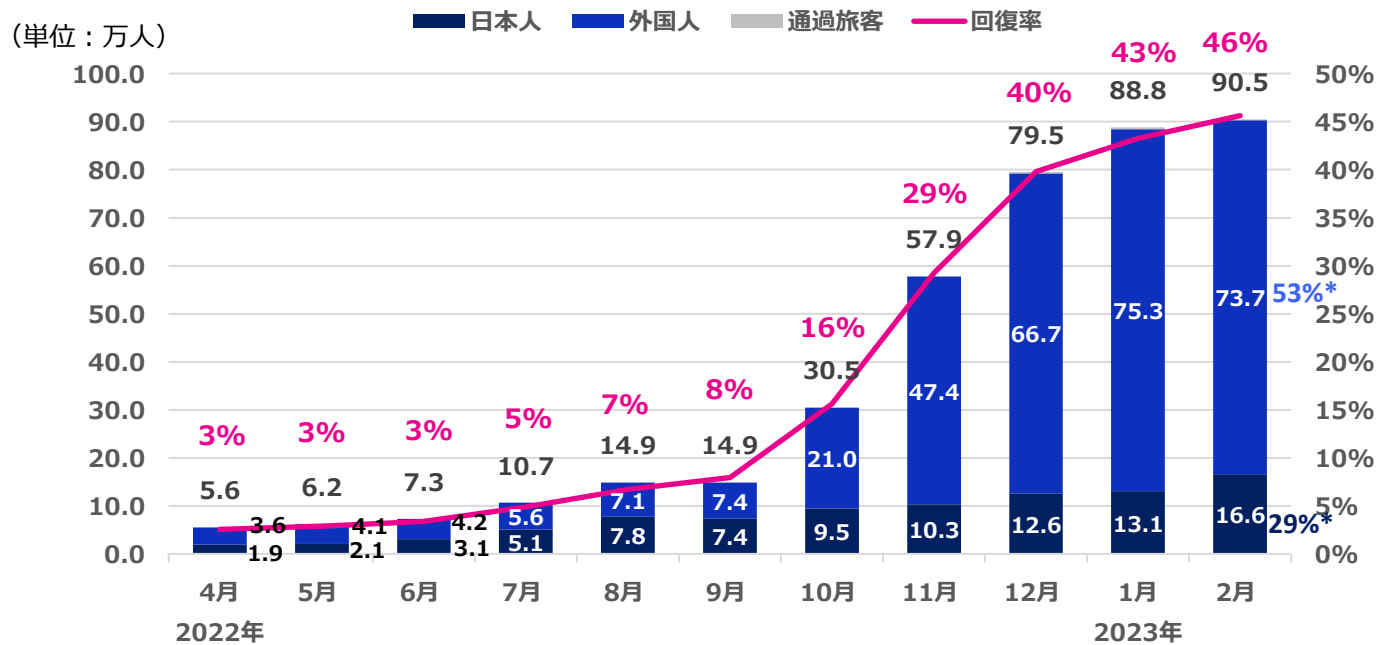
- ✈ 2022年度は国際線・国内線ともに昨年から大きく回復し、3空港合計の4-2月の旅客数は2,417万人。
- ✈ KIX国際線は10月11日以降の水際対策の緩和に伴い、大幅に回復。旅客増は主に韓国、東南アジア、台湾、香港からの外国人インバウンドによるもの。
- ✈ 国内線は政府による緊急事態宣言等の行動制限措置が講じられなかったため、大きく回復し3空港合計でコロナ前比82%の回復率に到達。

国際線(KIX) 日本人/外国人旅客実績 (4-2月)

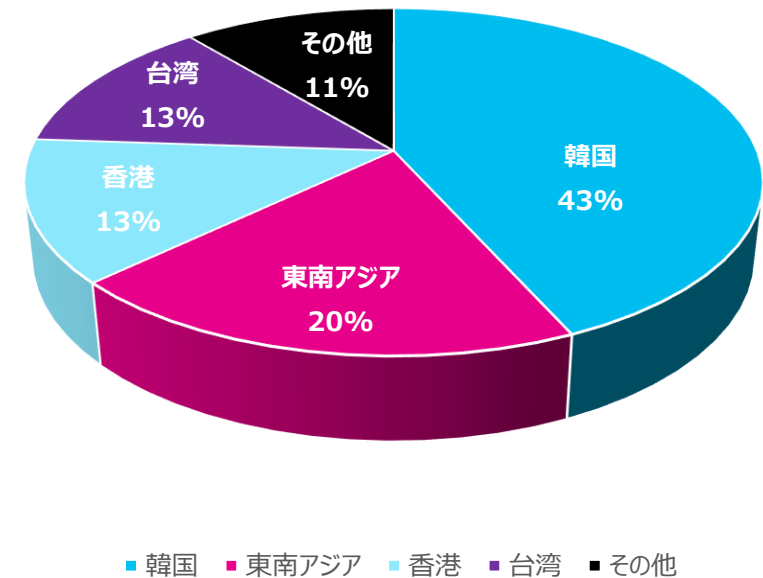
外国人旅客を中心に大きく回復

- ✦ インバウンド（外国人）は10月から1月にかけて3倍以上になり大幅に回復。アウトバウンド（日本人）は徐々に増加傾向。
- ✦ インバウンド旅客シェアはアジアが中心であり、韓国が43%を占め、東南アジア、香港、台湾を含め、全体の90%程度を占める。

国際線 日本人/外国人/通過旅客数 2022年度推移

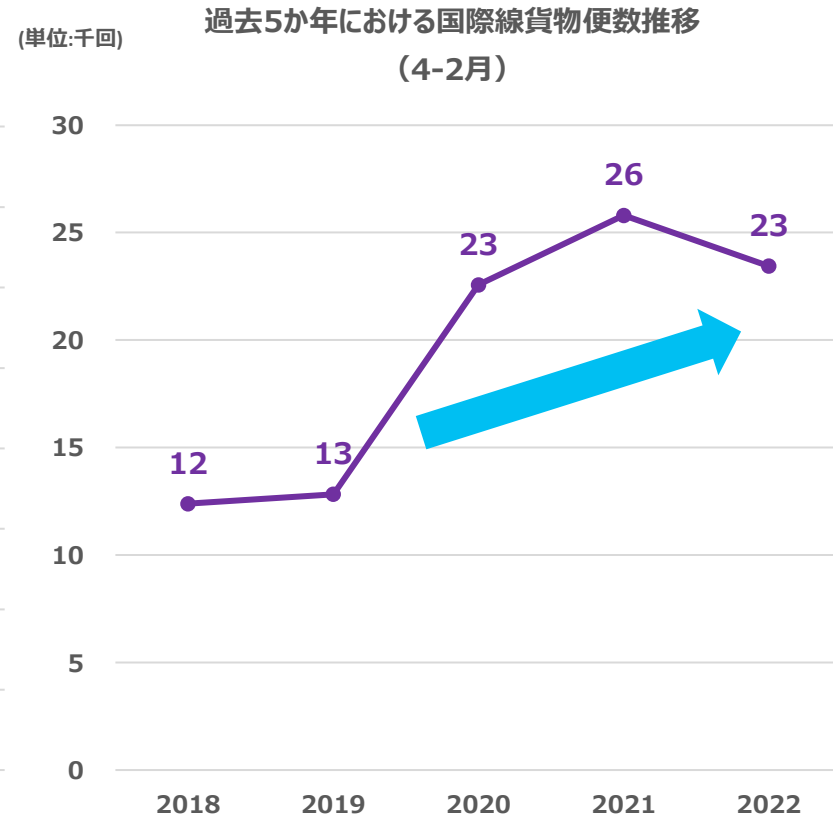
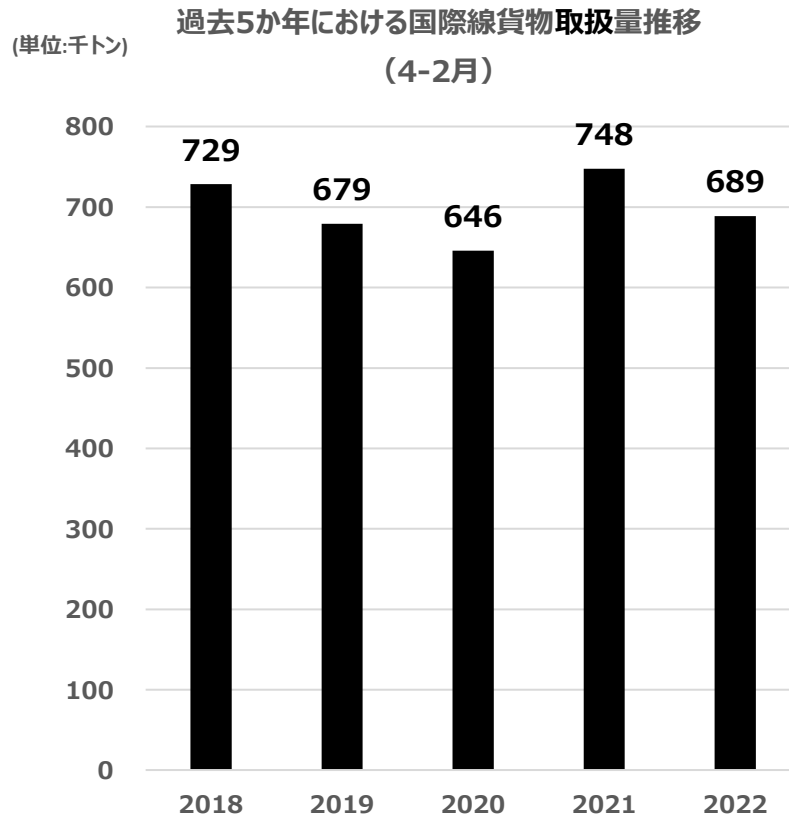


国際線 外国人国籍別内訳 2022年12月



KIX国際貨物取扱量実績（4-2月）

KIXの国際貨物取扱量は約69万トン、前年を8%下回る



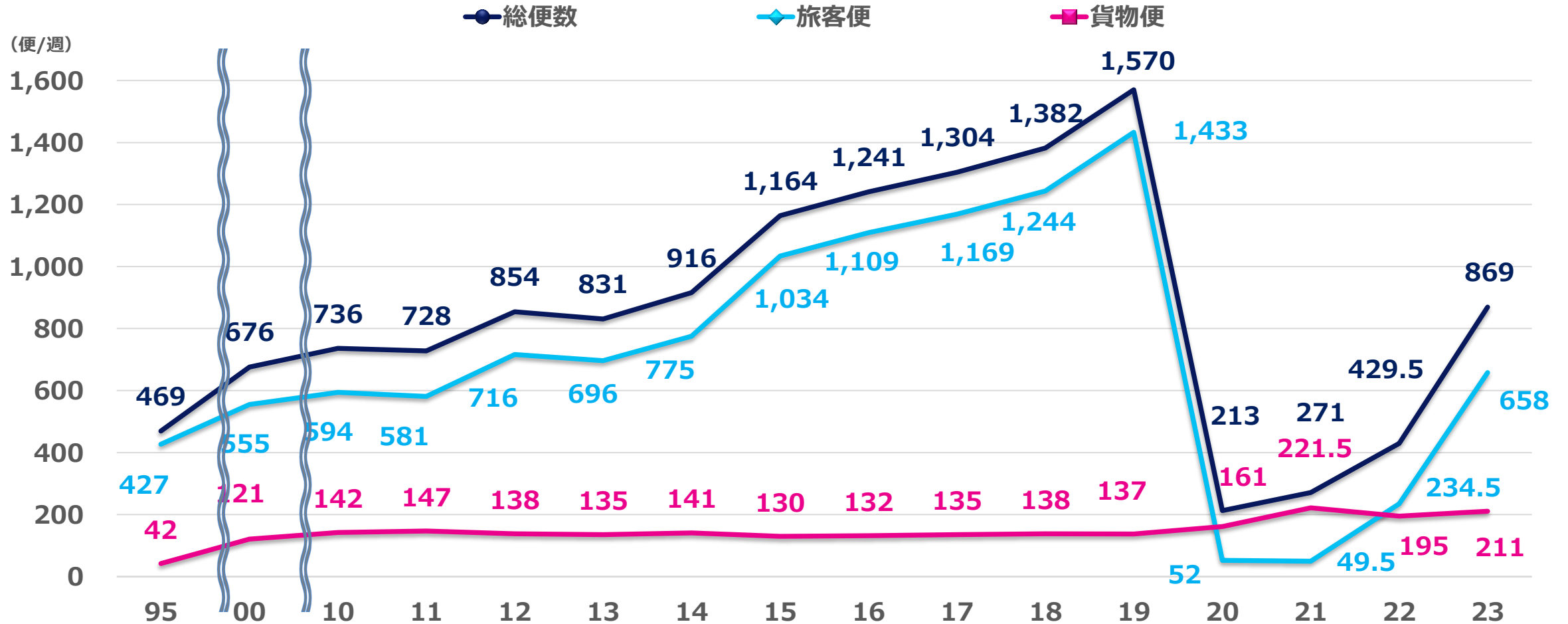
- ✈ 2022年度の貨物取扱量は、引き続き2019年度を超える実績だが、好調であった前年と比較すると8%下回った。
- ✈ 海上輸送の混乱からの航空輸送への振替は、コンテナ船の供給制約に緩和の兆しがある。船から航空貨物へのシフトも見られなくなりつつあるため、貨物取扱量は減少傾向。
- ✈ また、原油高等による輸送コストの上昇、世界的な物価高による消費の弱りもあり、日本だけではなく全世界的に需要が減少傾向。
- ✈ 旅客便の貨物スペースの減により便数は19年比では倍程度の規模を保っている。しかし、昨年比では減少傾向であり、今後も旅客便の回復に伴い減少すると思われる。



2023年夏期スケジュールについて

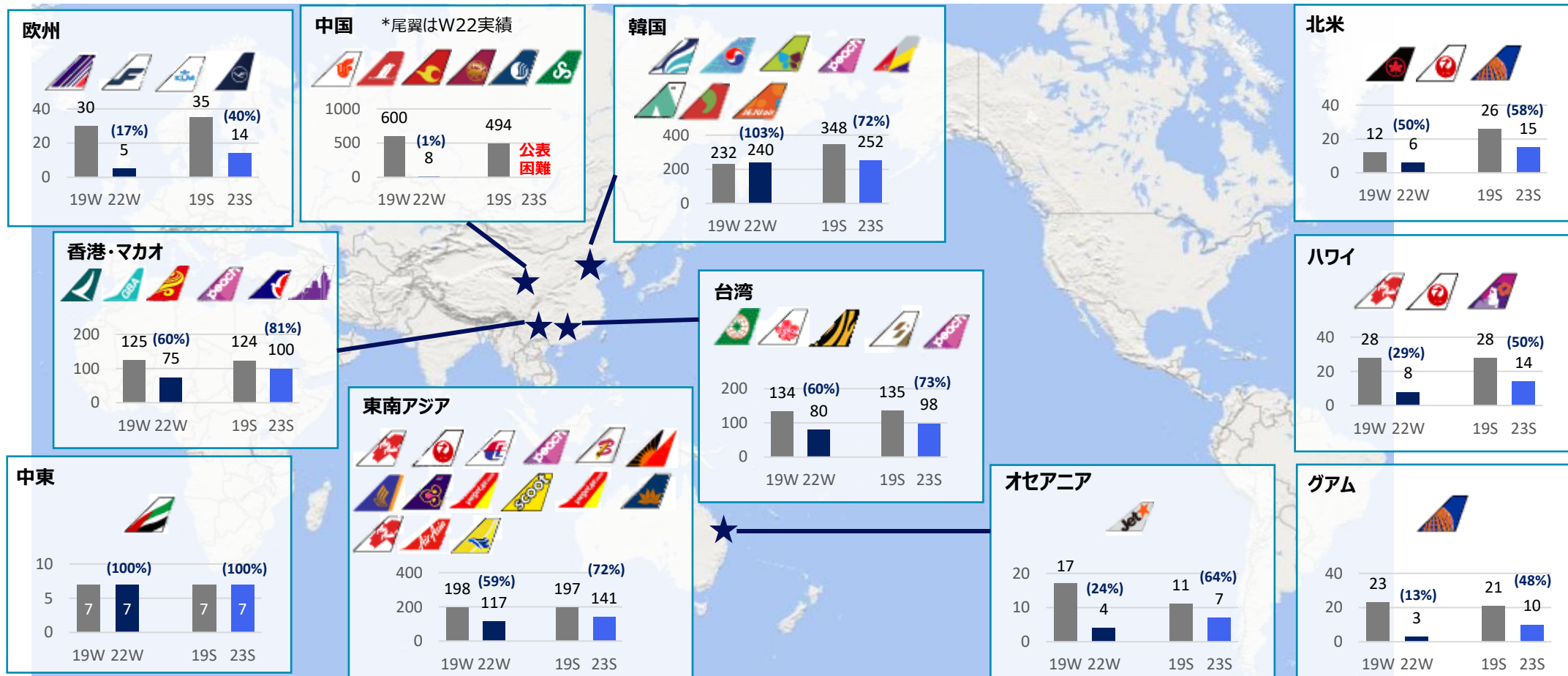
関西国際空港における 2023年夏期スケジュール国際定期便 就航便数

夏期スケジュール



国際旅客定期便 2023年夏スケジュール想定便数

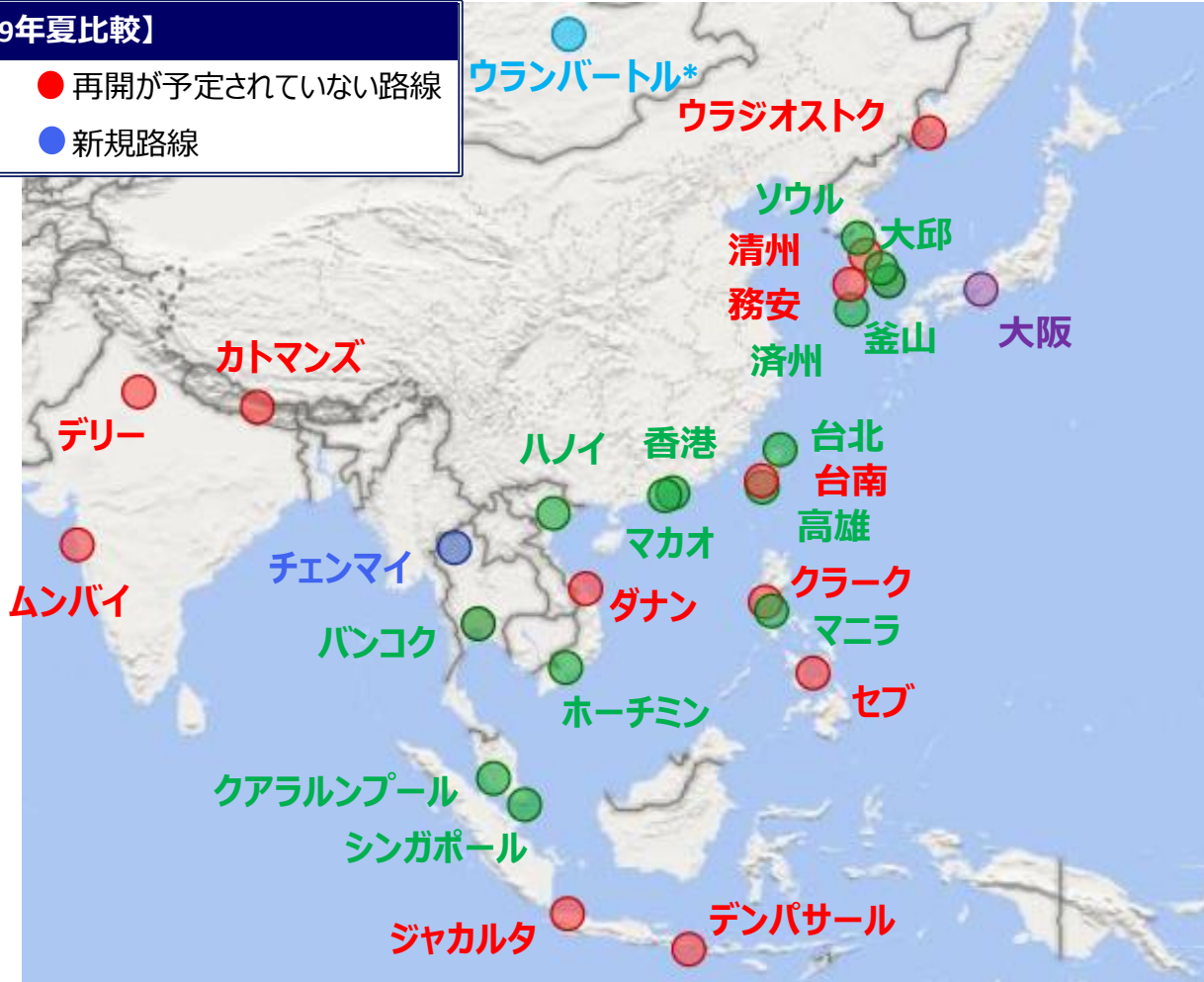
S23 : 658便 (S19比回復率46% / 中国除く70%) W22 : 553便 (W19比回復率39%)



旅客便 国際線 航空会社の就航見通し (中国を除くアジア)

【2019年夏比較】

- 既に再開している路線
- 再開が予定されていない路線
- S23に再開予定の路線
- 新規路線



1. 復便する航空会社

- MIAT モンゴル航空(ウランバートル)*

2. 就航済みの新規航空会社

- スターラックス航空 (台北)
- バティックエアー マレーシア (台北=クアラルンプール)
- タイベトジェット (チェンマイ)

3. 既存航空会社による新規路線

- エアプサン (ソウル(仁川))
- ピーチ (バンコク(スワンナプーム))

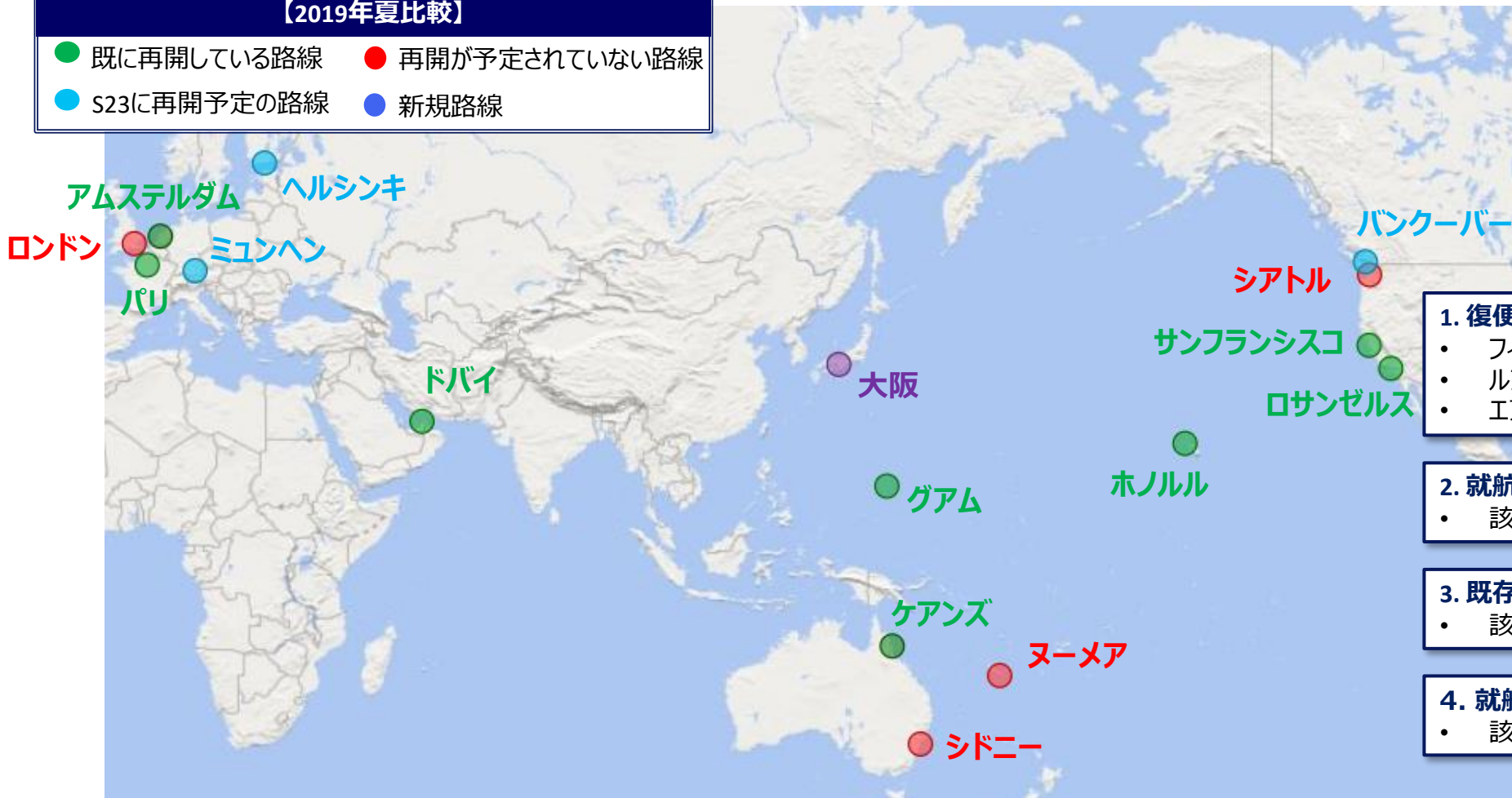
4. 就航準備中の航空会社

- グレーターベイ航空 (香港)

旅客便 国際線 航空会社の就航見通し (ヨーロッパ・中東・北米・オセアニア)

【2019年夏比較】

- 既に再開している路線
- 再開が予定されていない路線
- S23に再開予定の路線
- 新規路線



- 1. 復便する航空会社**
- フィンエアー (ヘルシンキ)
 - ルフトハンザドイツ航空 (ミュンヘン)
 - エア・カナダ (バンクーバー)

- 2. 就航済みの新規航空会社**
- 該当なし

- 3. 既存航空会社による新規路線**
- 該当なし

- 4. 就航準備中の航空会社**
- 該当なし